

授業科目：基礎看護学実習Ⅱ

科目目標：科学的思考のプロセスをふまえて、対象に必要な日常生活への援助ができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 意図的・系統的に必要な情報収集ができる。	1) 必要な情報収集 (1) 基礎情報 (2) 医学診断に関連する情報 (3) ゴードンの機能的健康パターンを用いた情報	<ul style="list-style-type: none"> ・1名の患者を受け持つ ・発達段階、発達課題、病態生理、症状、検査、治療、看護は事前学習をして実習に臨む。 ・標準看護計画等を参考にし、観察項目の整理と観察方法を予め学習しておく。 ・情報収集は、患者、家族、医療従事者（指導者）、カルテ等から優先度を考え行う。
2 情報の分析・解釈と関連図から対象を理解できる。	1) 得られた情報の分析・解釈 2) 全体像の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴードンの機能的健康パターンのアセスメントガイドを参考にし、得られた情報の分析・解釈を行い、患者の問題や強みを抽出する。 ・関連図を作成する。
3 看護診断の確定ができる。	1) 看護診断の確定	<ul style="list-style-type: none"> ・「NANDA-I 看護診断 定義と分類」を使用する。 ・情報収集したものを統合的にアセスメントし、看護診断を確定する。 ・看護診断毎に、E（原因・誘因）、S（症状・徴候）を明確にする。
4 看護介入計画が具体的に立案できる。	1) 看護目標の設定 2) 看護成果の設定 3) 看護介入計画の立案 (1) OP：観察 (2) TP：直接的ケア (3) EP：教育・指導	<ul style="list-style-type: none"> ・看護目標は、現在の健康段階や疾病のたどる経過、治療方針や一般的な看護の原則をふまえて、対象を主語に記述する。対象にとって最も望ましい姿を表現する。 ・「看護成果」はE（原因・誘因）S（症状・徴候）から導きだす。 ・RUMBAの成果指標で表現する。 ・看護介入は成果が達成できるよう個別性を追加して具体的な計画を立案する。
5 計画に基づいて、患者の安全、安楽、自立を考えながら看護が実践できる。	1) 看護介入計画に基づいた日々の行動計画の立案 2) 安全・安楽・自立に配慮した援助の実施 3) 患者の反応を確認しながら援助の実施 4) 看護実践の報告 (1) 適切な時期、事実に基づいた報告	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画の実習目標は、成果指標からその日に達成できる内容とする。 ・行動計画の指導助言を受ける。 ・看護介入計画立案前は、受持ち患者に必要な援助を考え、目的を明確にして援助計画用紙を準備する。（1週目） ・看護介入計画立案後は、計画に基づいた援助を行動計画表に立案し、実践する。また、看護診断に対する介入計画とは直接関連しない看護活動（状態に関連した観察、清潔援助などの日常生活援助等）については、援助計画用紙に目的・方法・留意点を明確にして実践する。（2週目）

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>6 看護実践を振り返り必要に応じて看護介入計画を評価・修正できる。</p>	<p>1) 行動計画の評価 2) 経過記録（SOAP）の記述 3) 看護介入計画の評価・修正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践は、教員・指導者の指導の基に、援助中は安全と安楽に配慮した援助を行う。また、看護場面における適切な声かけや確認を行う。 ・報告は、実施内容と、患者の反応などから考えたことを整理する。ただし、状況によってはその都度報告が必要なこともあるため、必要に応じて相談あるいは指示に従う。 ・行動計画表の評価は、援助の経過と照らし合わせ、実習目標の到達度がわかるように客観的に記述する。 ・看護実践したことは、教員または指導者と、その都度振り返りを行い、対象理解や知識面・技術面の課題を明確にして翌日以降の計画に活かす。 ・看護介入した経過を SOAP 形式で記述する。 ・必要に応じて看護介入計画を修正する。
<p>7 医療安全の基本を理解することができる。</p>	<p>1) 安全教育の意義と医療者の倫理的責任 2) 事故予測と回避方法 3) SHELLモデルを用いた事故分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習オリエンテーション及び安全教育で学ぶ。 ・実習で起こりやすい事例をもとに事故予測と回避方法の検討を実践活動外学習で行う。 ・受け持ち患者に起こりうる事故予測と回避方法のカンファレンスを行う。
<p>8 看護学生としてふさわしい態度がとれる。</p>	<p>1) 良好な人間関係 (1) 清潔な身だしなみ (2) 言葉遣い、挨拶、態度 (3) 医療スタッフ・教員・グループメンバーとの適切なコミュニケーション (4) グループの役割遂行 2) 学習者としての役割の自覚、誠実性、責任 (1) 守秘義務、個人情報管理 (2) 報告・連絡・相談 (3) 計画的な学習への取り組み (4) 約束、時間の厳守 (5) 健康管理 3) 自己の課題の明確化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスで積極的に意見交換を行う。またグループメンバーと協力し、学びを深める。 ・学習が不足していることや疑問点は調べ、主体的に学習する。 ・謙虚、柔軟な姿勢で、助言を活かす。 ・清潔な身だしなみ、誠実な態度、円滑なコミュニケーションを心掛け、他者に与える印象や影響を考えながら適切に対応する。 ・臨地実習において対象への看護を行う責任を自覚した行動をとる。